

(資料7)

第1回高砂市総合計画審議会（全体会）市長あいさつ

平成21年5月29日開催

本日は、委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、当審議会にご参集を賜り、誠にありがとうございます。

また、皆様には、平素から市政運営に格段のご理解、ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、当審議会は現在の第3次総合計画が平成22年3月末をもって終期を迎え、平成23年4月からスタートいたします本市にとりまして4回目となる総合計画を円滑に策定していくために設置するものでございます。

市の総合計画は、皆様も既にご承知のことと存じますが、市の最上位の計画として位置づけられており、高砂市の進むべき指針として、また、私ども市政を預かる者にとってもその運営の根幹をなすべきものでございます。

特に、今回、策定を予定いたしております第4次の総合計画は、現下の厳しい財政状況の中で、本市の将来を見据え、希望のある安定した市民生活の構築を基点とした行政運営を実現し、「ふるさと高砂の再生」を進めていく上で重要な役割が求められているところでございます。

しかしながら、近年における市民意識の多様化、国際化、少子・高齢化等の急激な進展により、本市を取り巻く社会経済情勢は大きく変化し、市民生活における価値観や生活様式に多大な影響を与えており、行政にとって新たな課題が生じてきております。

加えて、世界経済は、百年に一度とも言われる金融・経済危機に直面しており、わが国においても、「景気の悪化は当面続く」と観られ、本市の市政運営に大きな影を落としているのが現状でございます。

このような背景をもとに、将来に渡って本市が真に地域社会をリードし、先人の残した遺産を継承しつつ後世に誇りうる街「高砂」を構築するためには、委員の皆様方を始め市民全体のご理解とご協力が不可欠であると考えていると

ころでございます。

策定に当たりましては、まちづくりの主役は市民であることから、市政運営でのパートナーである市民の皆様の多様な意見を反映させ、また、市政への関心を今以上に持っていただくための「市民参画」、未来の高砂市を創生していくための「若者の視点」、そしてこれまでの高砂市の歴史、文化、産業などが集積された「まちの個性」、この3つの要素を大切に、健康・環境・文化をキーワードに、これから10年先の生活文化都市高砂のビジョンを市民の皆様とともに創っていきたいと考えております。

どうか、委員の皆様、本日を皮きりに2箇年にわたり大変ご苦勞をおかけしますが、私どもの趣旨を充分にご理解のうえ忌憚のない意見を出していただきまして、私どもと共に第4次総合計画の策定にご協力を賜りますよう切にお願い申し上げる次第でございます。

最後に、委員委嘱についてですが、本来なら、委員就任をお願いしました手前、私どもが皆様方に直接委嘱状をお届けし、お願い申し上げるべきところでございます。しかし、時間的な制約のなかで、本日の資料に同封させていただいておりますので、ご査収のうえご理解賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。